

【NEWS RELEASE】

2016年11月21日
株式会社 KADOKAWA

**米澤穂信さんが読者の質問に答えます！
累計 205 万部突破の〈古典部〉シリーズ、6 年ぶりの最新刊
『いまさら翼といわれても』発売記念でスペシャル企画始動！**

いままで気になっていた〈古典部〉の謎を解くチャンス！？

株式会社 KADOKAWA より 11 月 30 日に発売される『いまさら翼といわれても』の刊行を記念して、米澤穂信さんが読者から寄せられた質問に答えるスペシャル企画「米澤穂信の一问一答」がスタートします。詳細は〈古典部〉シリーズ公式 HP をご覧ください。

<http://shoten.kadokawa.co.jp/sp/201202-04/>



写真 清水厚

■ 〈古典部〉シリーズについて

『満願』『王とサーカス』『真実の10メートル手前』……
進化し続けるミステリ作家・米澤穂信の、進化し続ける原点。
挑むは、日常の謎と、青春の苦悩——本格学園ミステリ。

「やらなくてもいいことなら、やらない。やらなければいけないことは手短かに」をモットーとする“省エネ”少年・折木奉太郎は、姉の命令で、高校入学と同時に部員ゼロの古典部に入らされる。そこで出会ったのは、清楚だが大きな瞳におさえきれない好奇心がにじむ少女・千反田える。中学校からの友人、福部里志と伊原摩耶花も古典部に加わり、奉太郎は仲間に依頼され、さまざまな謎を推理・解決していくことに……。

■ 『いまさら翼といわれても』 作品紹介・あらすじ

誰もが「大人」になるため、挑まなければいけない謎がある。〈古典部〉4人の過去と未来が明らかになる、瑞々しくもビターなミステリ短編集！

神山市が主催する合唱祭の本番前、ソロパートを任されている千反田えるが行方不明になった。夏休み前のえるの様子、伊原摩耶花と福部里志の調査、課題曲、ある人物がついた嘘——折木奉太郎が導き出し、ひとりで向かったえるの居場所は。そして、彼女の真意とは？（表題作）

■ 著者プロフィール 米澤穂信（よねざわ・ほのぶ）

1978年岐阜県生まれ。2001年、第5回角川学園小説大賞（ヤングミステリー&ホラー部門）奨励賞を『氷菓』で受賞しデビュー。11年『折れた竜骨』で第64回日本推理作家協会賞（長編及び連作短編集部門）、14年『満願』で第27回山本周五郎賞を受賞。『満願』、15年『王とサーカス』はそれぞれ3つの年間ミステリー・ランキングで1位となり、史上初の2年連続3冠を達成。本書は『氷菓』『愚者のエンドロール』『クドリヤフカの順番』『遠まわりする雛』『ふたりの距離の概算』の〈古典部〉シリーズの6作目である。近著に『真実の10メートル手前』。

■ 書誌情報

『いまさら翼といわれても』

著：米澤穂信

発売日：2016年11月30日 ※地域によって発売日が前後する場合があります。

定価：本体1,480円+税

体裁：四六判上製

頁数：360頁

米澤穂信「いまさら翼といわれても」〈古典部〉シリーズ公式HP：

<http://shoten.kadokawa.co.jp/sp/201202-04/>

電子書籍も同日発売予定 ※ストアによって配信日が異なる場合があります。